

赤谷プロジェクト
20年の成果と次の10年の展望

2024年2月3日
関東森林管理局

赤谷プロジェクト 20年の成果

1. 植生試験

2006年：カラマツ林を伐採



1. 植生試験

2007年：カラマツ林の伐採から 1 年後



1. 植生試験

2008年：カラマツ林の伐採から 2 年後



1. 植生試験

2010年：カラマツ林の伐採から4年後



1. 植生試験

2012年：カラマツ林の伐採から6年後



1. 植生試験

2021年：カラマツ林の伐採から15年後



1. 植生試験

2008年：スギ林の伐採前



1. 植生試験

2009年：スギ林を伐採



1. 植生試験

2022年：スギ林の伐採から14年後



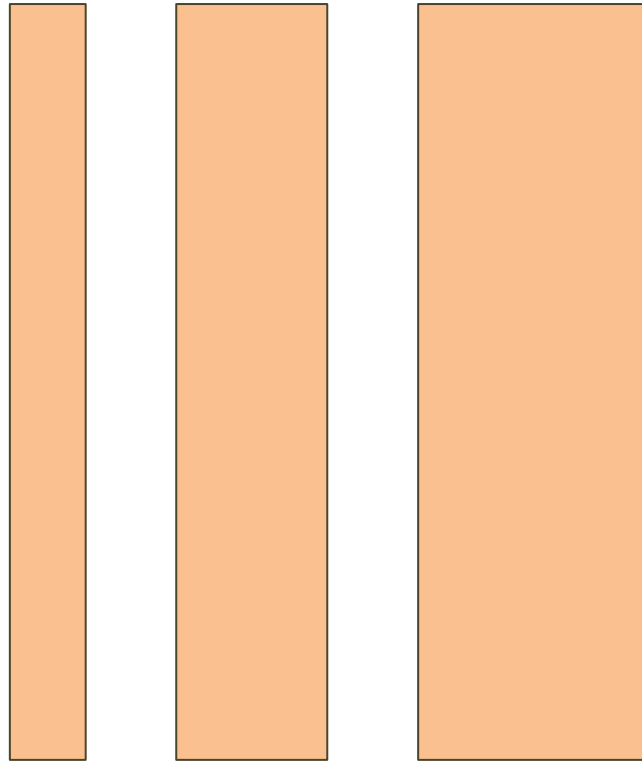
1. 植生試験

2022年：スギ林の伐採から14年後



1. 植生試験

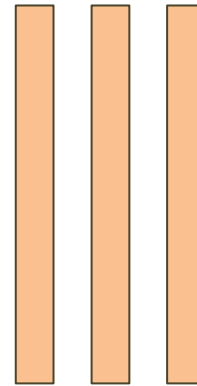
伐採幅



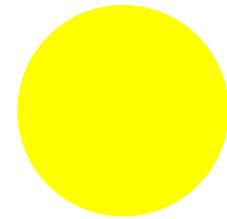
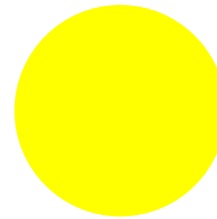
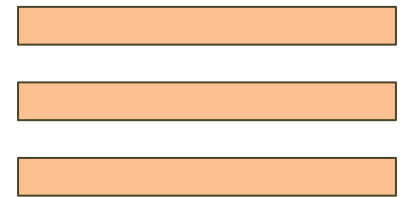
狭い ← → 広い

伐採の向き

南北

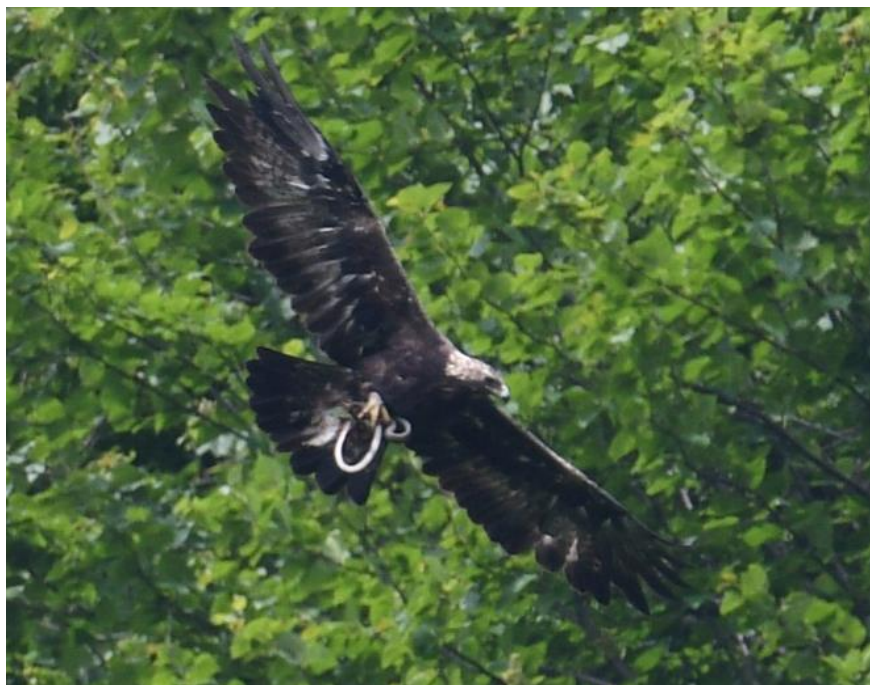


東西



2. イヌワシ

赤谷の森にはイヌワシが生息



2. イヌワシ

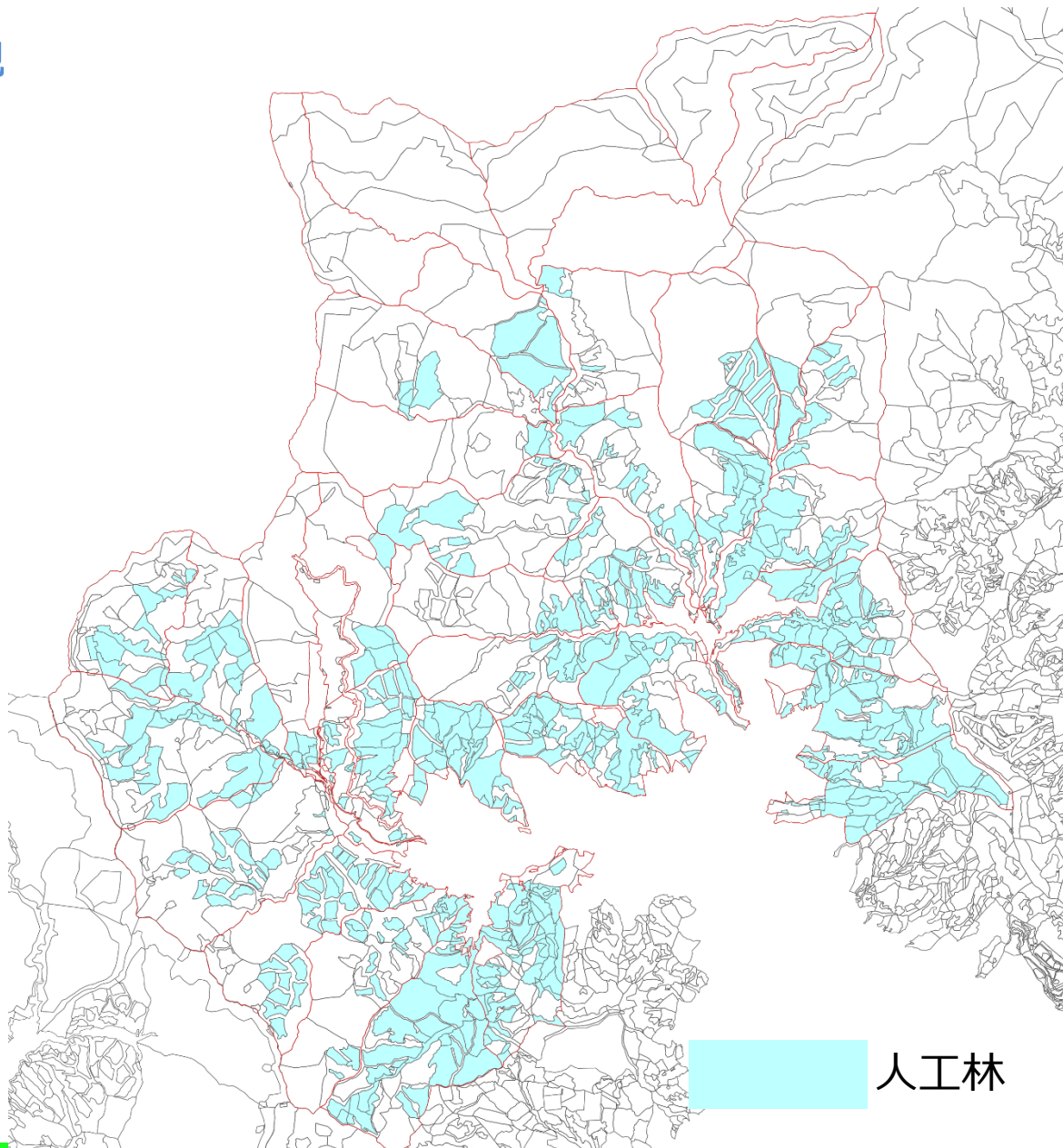


2. イヌワシ

イヌワシの本来の狩場は、**開放地**



人工林は、狩場として**不適**



人工林

2. イヌワシ

現在のようなスギ山や、イヌワシの生息にいまいち。(写真は刎石山(赤谷ではありません))



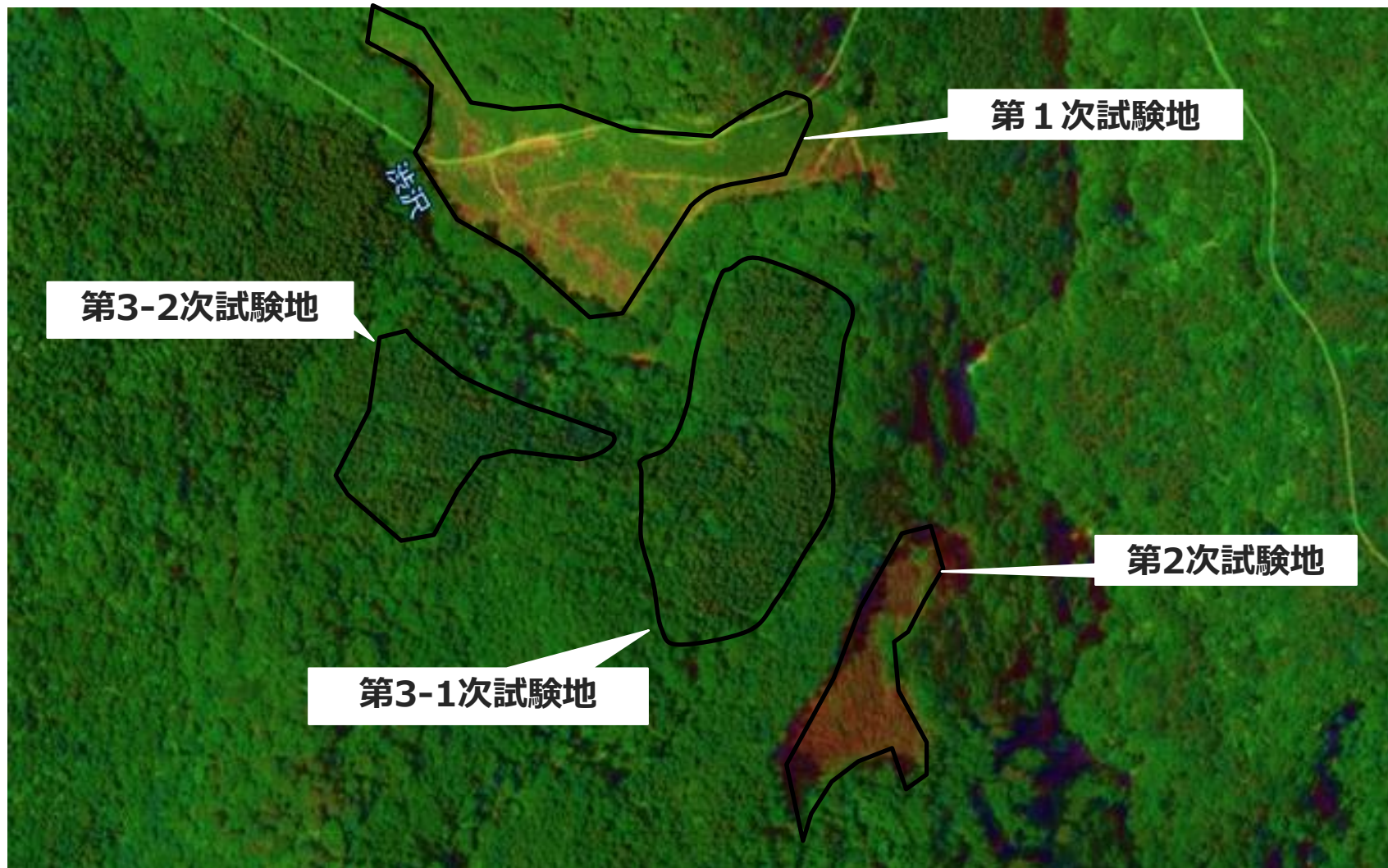
2. イヌワシ

江戸時代の「柴刈り山」は、イヌワシに適していたかも？ (写真は剝石山(赤谷ではありません))



2. イヌワシ

イヌワシの狩場創出のための伐採を実施(2015年～)



2. イヌワシ

第1次イヌワシの狩場創出の試験地の変化



2014年9月20日



2015年10月4日



2016年9月17日



2017年10月20日



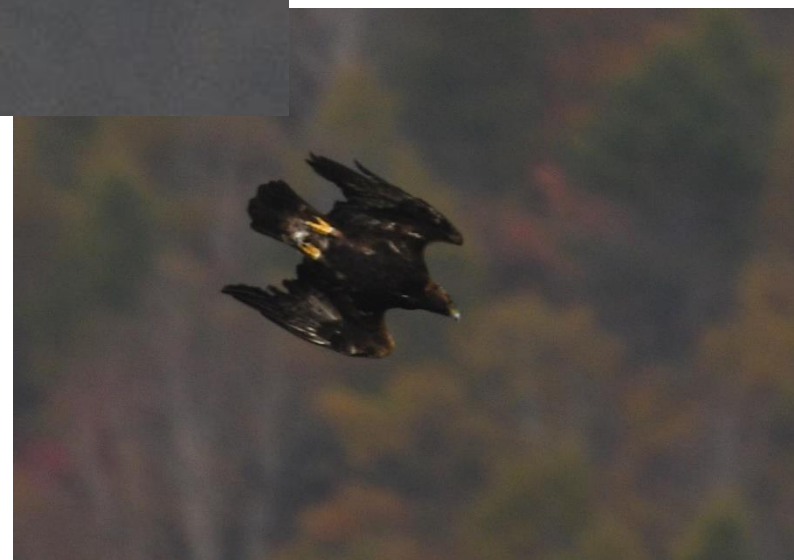
2018年8月31日



2019年11月19日

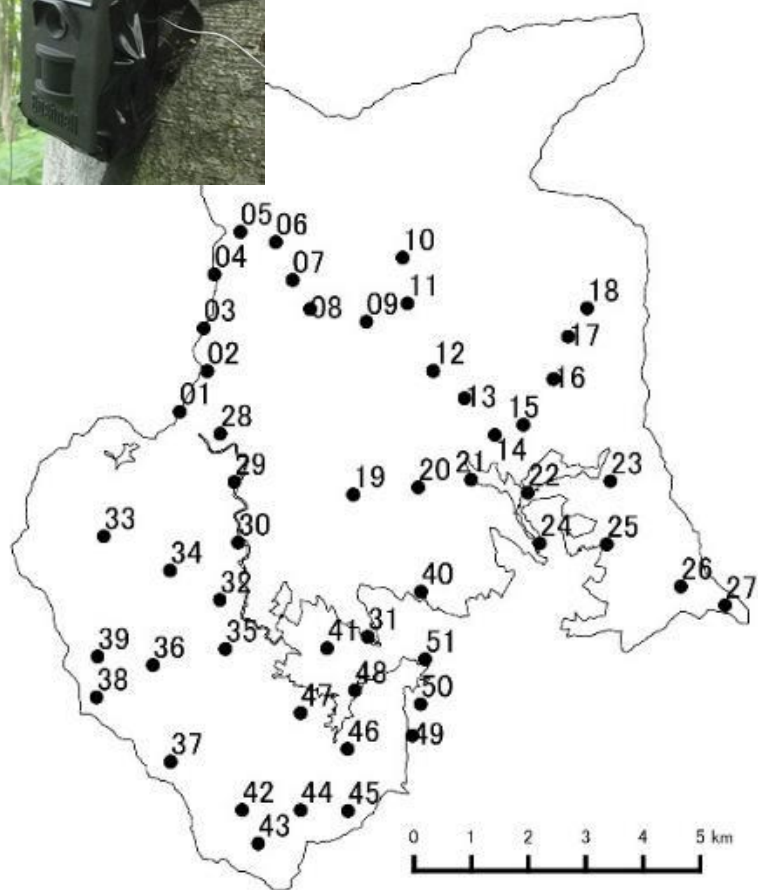
2. イヌワシ

イヌワシの狩り行動が増加。繁殖状況が好転。



3. 哺乳類とシカ

赤谷の森では、センサーカメラで哺乳類の生息状況を調査



親グマ



子グマ



3. 哺乳類とシカ

カモシカ



サル



キツネ



ウサギ



3. 哺乳類とシカ

2010年頃、シカの食害が目につくようになってきた。



センサーカメラでのシカの撮影も増加



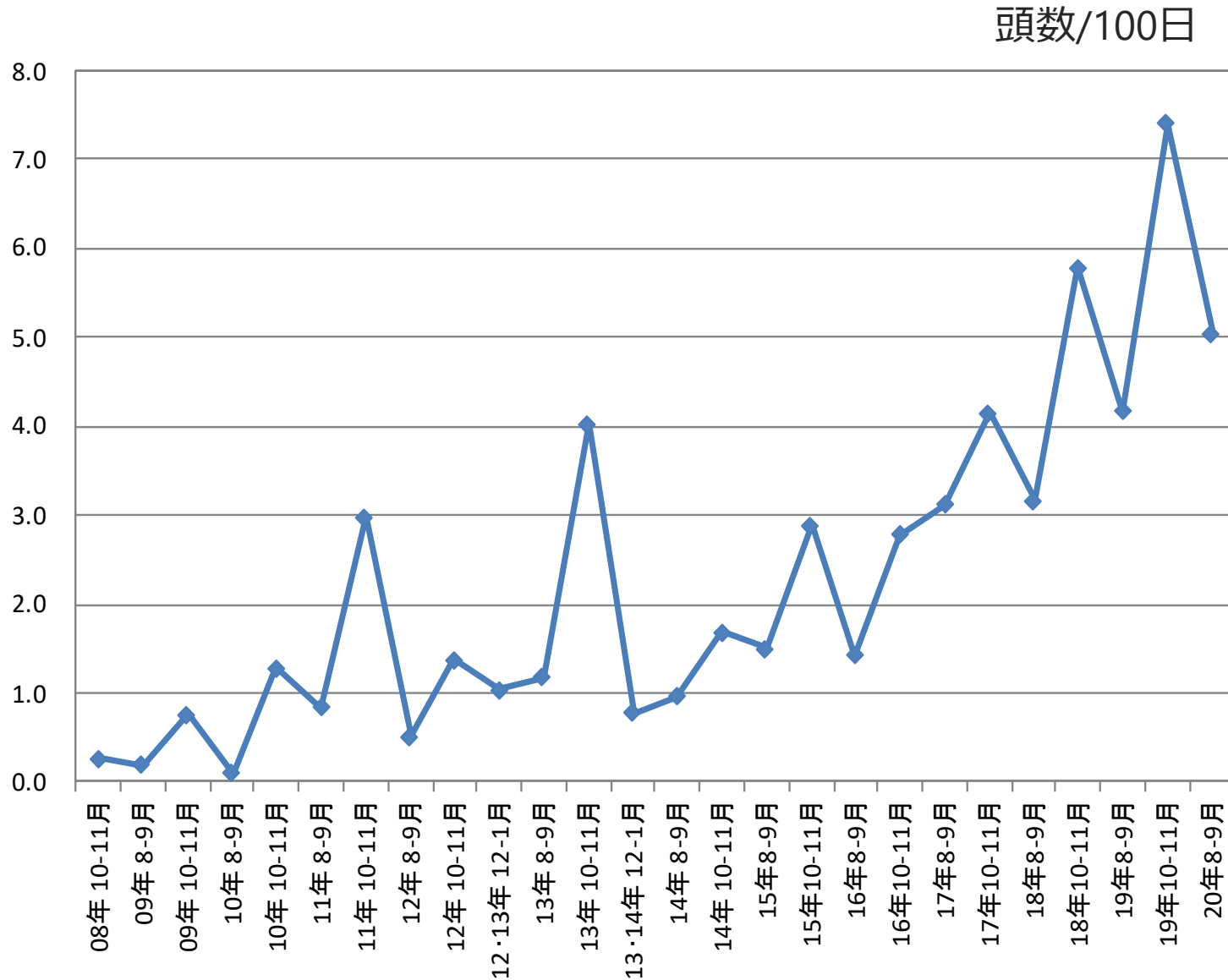
UOVISION-D P 2020.05.16 09:00:34 ●24 012°C 054°F ☑4



UOVISION-F P 2023.04.18 19:01:22 ●28 002°C 036°F ☑4

3. 哺乳類とシカ

センサーカメラでのシカの撮影状況



3. 哺乳類とシカ

シカの食害は、森林生態系に大きな影響
屋久島森林生態系保護地域



祖母山・傾山・大崩山周辺
森林生態系保護地域



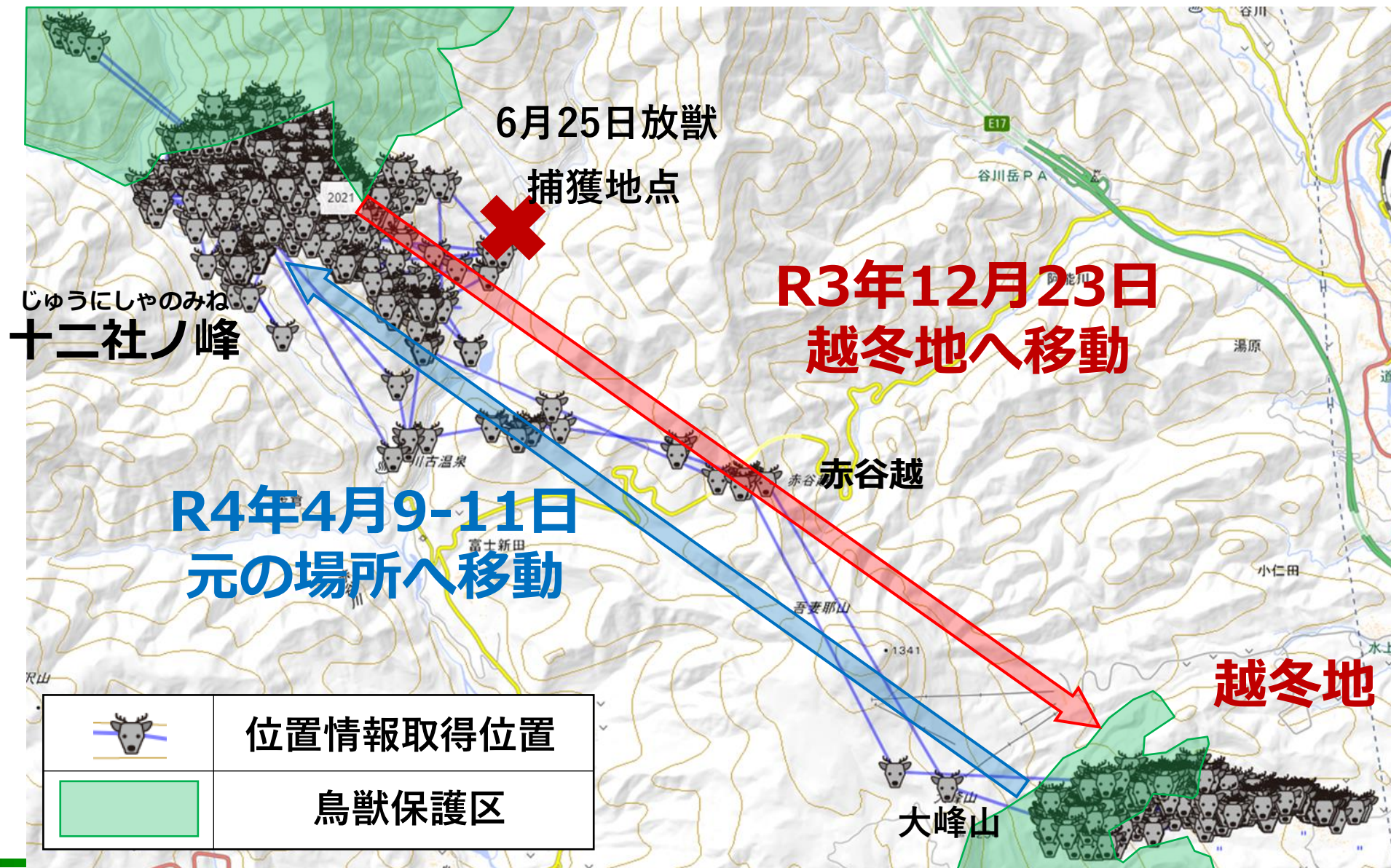
3. 哺乳類とシカ

シカの捕獲と調査を実施



3. 哺乳類とシカ

赤谷のシカは**広範囲に移動** → **みなかみ町全体での取組**に反映



4. 環境教育や地域づくり

新治小学校向けの環境教育



赤谷の森 自然散策



伐採地現地案内

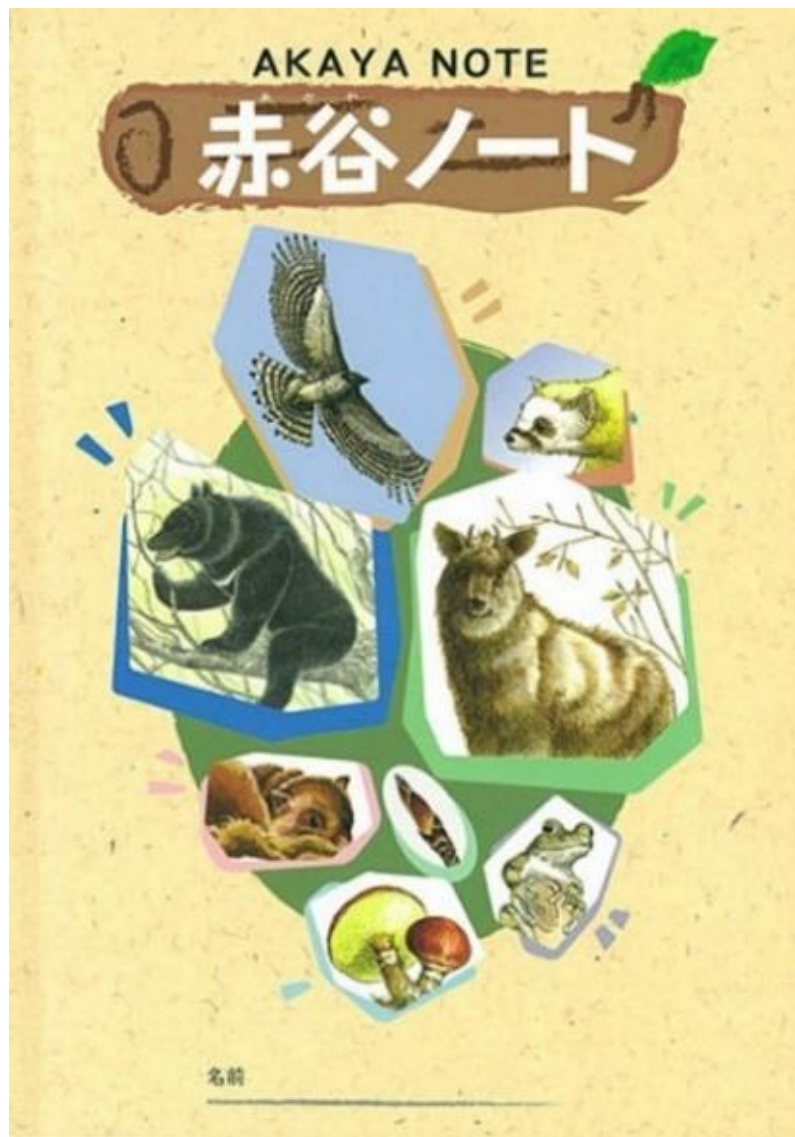


南ヶ谷湿地保全活動

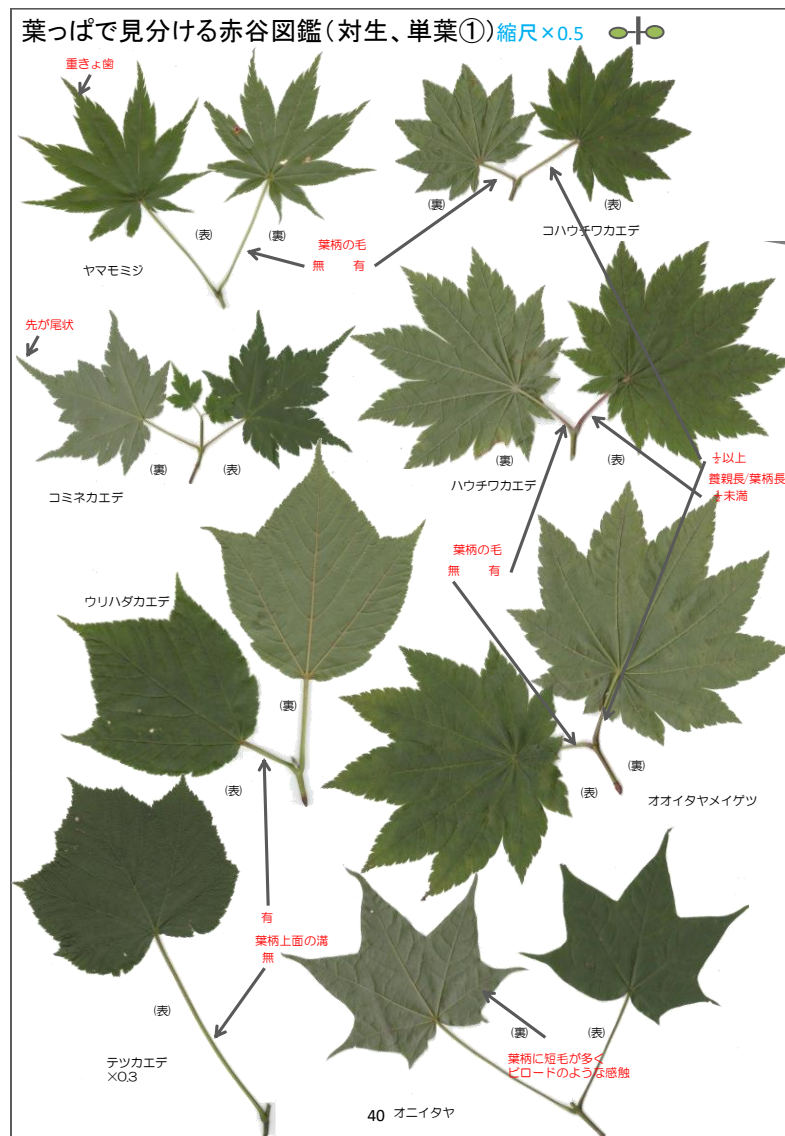


4. 環境教育や地域づくり

「赤谷ノート」



「葉っぱで見分ける赤谷図鑑」



4. 環境教育や地域づくり

「三国山お花畑map」

三国権現～お花畑～三国山
登山道沿いに様々な植物を
楽しめるエリアです。
ゆっくり登って楽しもう！



赤谷プロジェクト

三国山や三国峠のある森は、利根川の支流赤谷川の最上流部に位置することから「赤谷(あかや)の森」と呼ばれています。この森では、赤谷プロジェクト地域協議会、林野庁関東森林管理局、日本自然保護協会の3団体の協働によって、豊かな森を復元する森林管理「赤谷プロジェクト」が行われています。詳細は検索【赤谷プロジェクト】

イラストの風景はココから見られます！お花畑から三国山に登ると木道の階段になります。そこから振り返るとこの景色です。



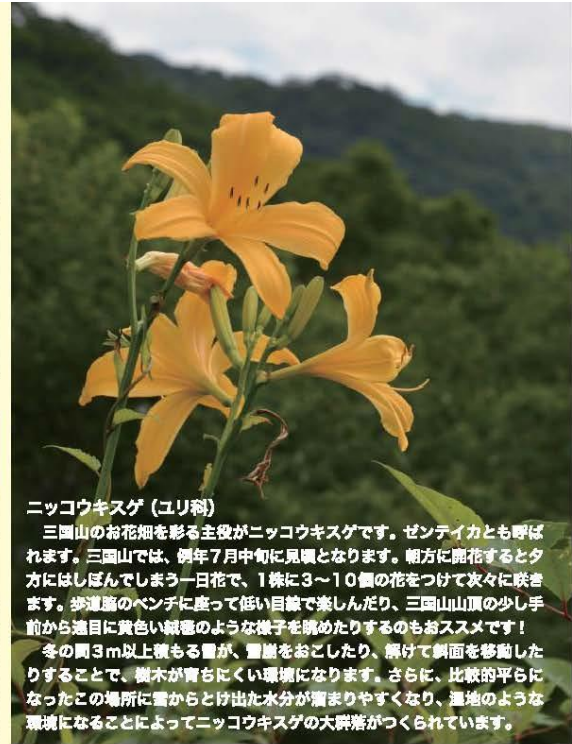
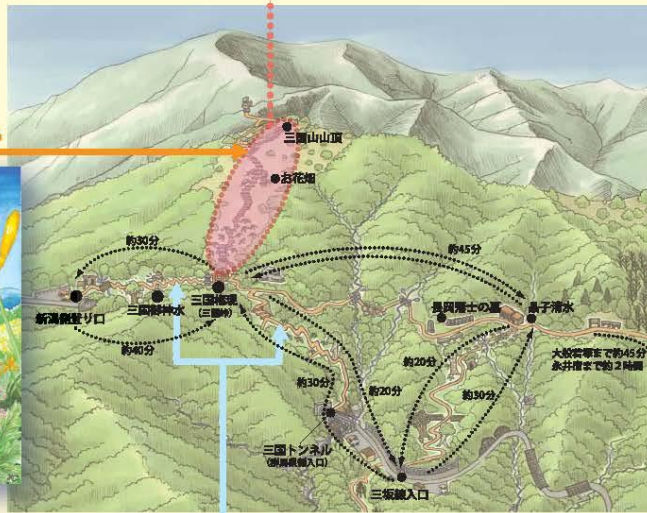
イラスト:平田美紗子

ゼフィルスを観てみよう！

ゼフィルスと呼ばれるチョウをご存知でしょうか？小さなシジミチョウの仲間、樹上で好んで生息する森のチョウです。その中でもミドリシジミの仲間のおスは美しく、キラキラと輝く青緑色はまるで宝石のようです。三国峠周辺では7月に成虫が見られ、オスは樹上に縄張りをつくり、縄張りに適した見晴らしの良い場所では、他のオスとの縄張り争いが繰り広げられ、キラキラと輝くチョウの乳蕨となり、自然愛好家にとってこの時期に楽しみにしている光景の一つです。*ゼアとはギリシア神話の西風の神で、絶好深い男神であること、この縄張り争いの様子を重ねて名付けられたとされています。天気が良く風の強い日、午前中か日没前頃に観察できることが多く、群馬側入り口と、新湯側駐車場から三国峠へ登る途中の少し視界が開けた場所が観察ポイントです。少し足を止めて、樹の上にキラキラと輝くチョウが飛んでいないか探してみてください。もし、その姿を双眼鏡などで見ることができれば、その翅の輝きに驚くことは間違いありません！！



シヨウザンミドリシジミ



ニッコウキスゲ(ユリ科)

三国山のお花畑を彩る主役がニッコウキスゲです。ゼンテイカとも呼ばれます。三国山では、例年7月中旬に見頃となります。朝方に開花すると夕方にはしぼんでしまう一日花で、1株に3~10個の花をつけて次々に咲きます。歩道脇のベンチに座って低い目線で楽しんだり、三国山山頂の少し手前から遠目に黄色い稲妻のような様子を眺めたりするのもおすすめです！冬の間3m以上積もる雪が、雪崩をおこしたり、解けて斜面を移動したりすることで、樹木が育ちにくい環境になります。さらに、比較的平らになったこの場所からとけ出した水分が溜まりやすくなり、湿地のような環境になることによってニッコウキスゲの大群生がつけられています。

三国山で見つかったチシオシモツケ(血潮下野)

チシオシモツケはシモツケソウ(バラ科)のうち、葉脈が血潮のように赤くなるものです。三国山周辺で見つかったため、戊辰戦争でこの地に会津藩士の血が流れたことによる名前から言われています。三国山付近にはアルカリ性の基岩が分布しているため、広い意味での蛇紋岩植物と考えられます。

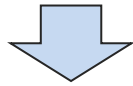
この花に名前を付けたのは、国立科学博物館名譽館員の奥山春季氏で、標本も残っています。しかし、名前は正式に発表されたものではなく図鑑にも載る記載はありません。奥山さんは自然愛好家のための植物観察会を積極的に行っており、その際に「チシオシモツケ」の名で解説していたため、今でも自然愛好家の中で使われ続けているようです。

三国山付近では、谷筋などの比較的湿った場所で普通に見られます。三国山以外でも谷川岳や利根川流域の丹後山付近などで確認されていますが、はっきりした分布は調べられていません。(情報提供:阿部利夫)



4. 環境教育や地域づくり

イヌワシ狩場の木材の利用



カスタネットの取組



4. 環境教育や地域づくり

2019年4月、桐を植栽



4. 環境教育や地域づくり

2022年5月：植栽から3年後の状況



赤谷プロジェクト
次の10年の展望

1. 伐採など施業の工夫

伐採など施業→大型の機械の使用が前提



1. 伐採など施業の工夫

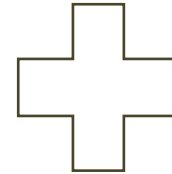
伐採など施業→大型の機械の使用が前提



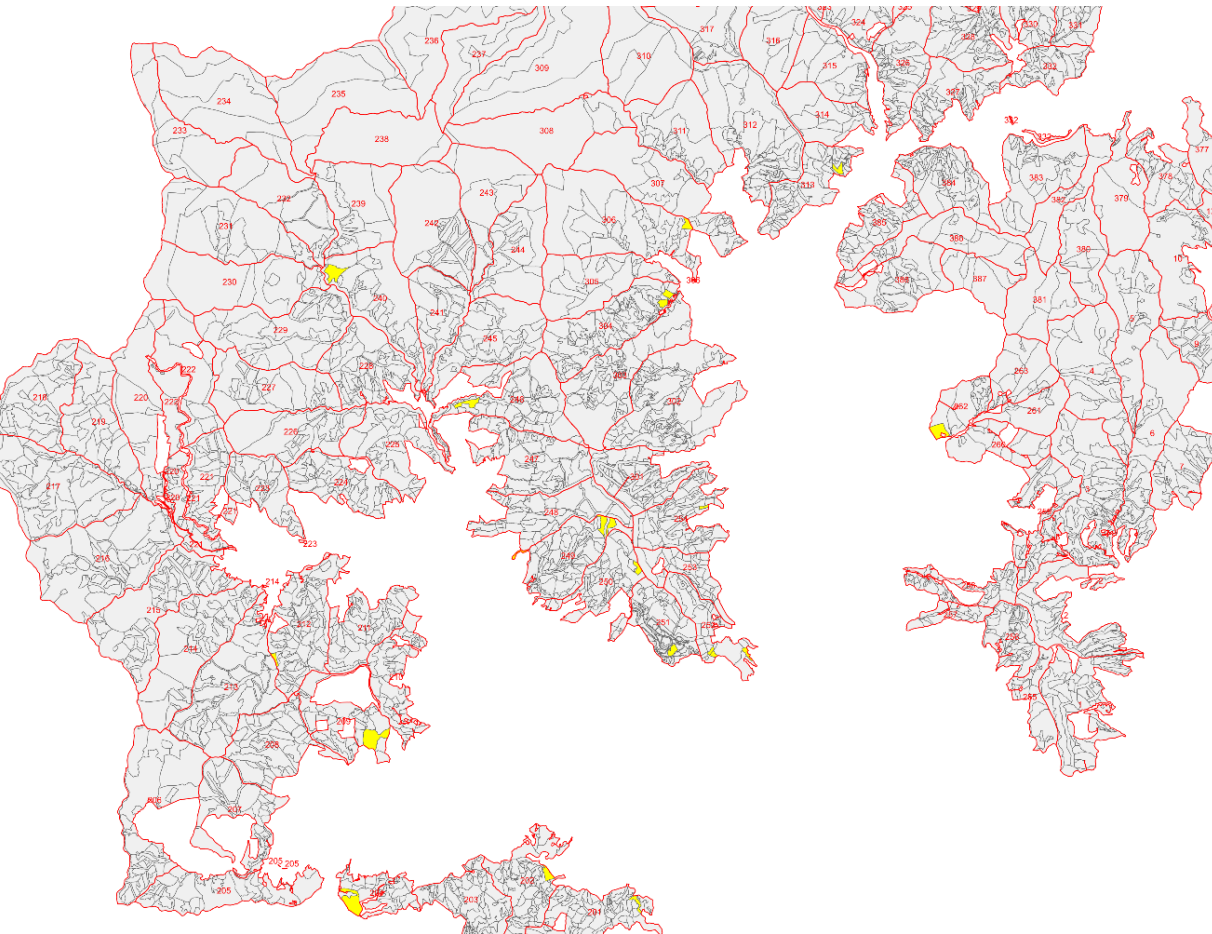
1. 伐採など施業の工夫

利根沼田署 みなかみ町での立木販売

1 件あたり、
4 ha超、2000m³超



小規模な立木販売の
追加の検討(間伐など)



2. 赤谷の森を見てもらう工夫

2022年：スギ林伐採から11年後 → 見た目は「単なる雑木林」



2. 赤谷の森を見てもらう工夫

2011年：スギ林の伐採直後の状態 → 「単なる雑木林」ではないという説明が必要



2. 赤谷の森を見てもらう工夫

イヌワシが立木でたたずんでいる姿 (300mm望遠レンズで撮影) → 見えない。



2. 赤谷の森を見てもらう工夫

イヌワシが立木でたたずんでいる姿 (300mm望遠レンズで撮影)を拡大



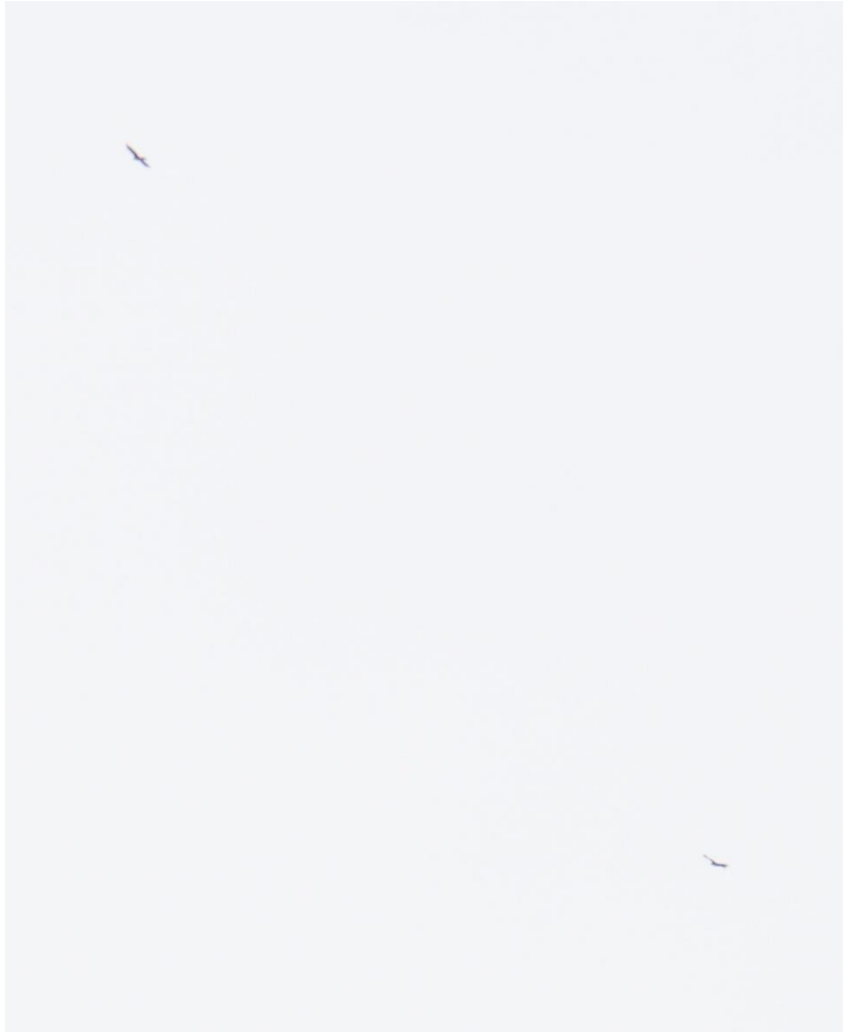
2. 赤谷の森を見てもらう工夫

イヌワシ飛行中 (300mm望遠レンズで撮影) → 見えない。



2. 赤谷の森を見てもらう工夫

イヌワシ飛行中 (300mm望遠レンズで撮影)を拡大



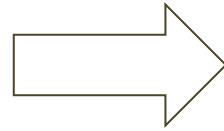
2. 赤谷の森を見てもらう工夫

シカのワナ → 単に置いてあるだけ



2. 赤谷の森を見てもらう工夫

なんとなく赤谷の森に行っても、
多分、面白くない。

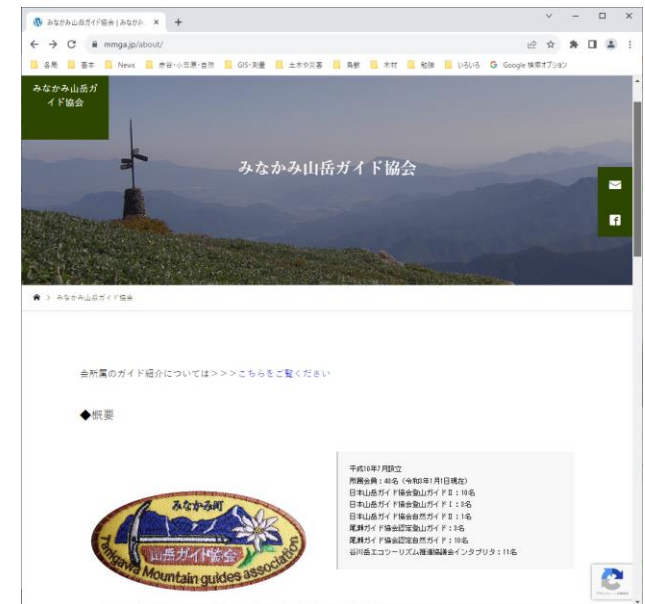
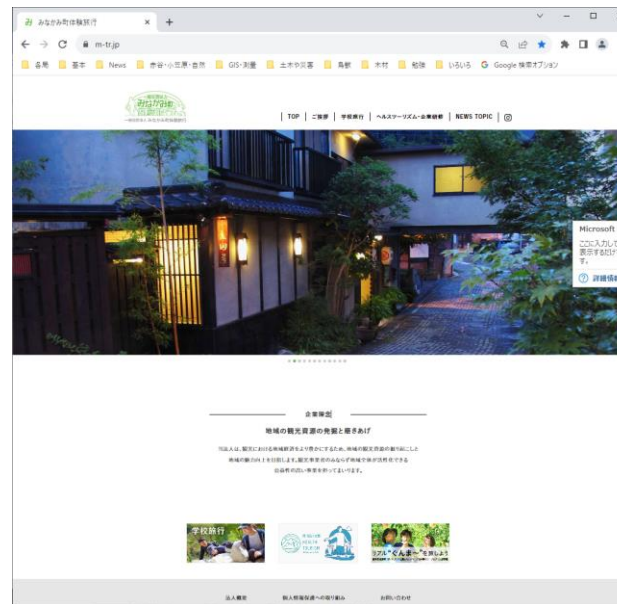


プロのガイドさんによる
自然観察ツアーなどが必要

過去の取組事例



みなかみ町のガイドの皆様へ期待



まとめ

赤谷の森をさまざまにお使いください。

